

## 事例研究報告

特別支援学校高等部の生徒が  
作業学習(カフェ)において  
意欲的に取り組むための支援

# 本校生徒の実態

## 実習に係る課題について 過去5年間のデータを収集し分析

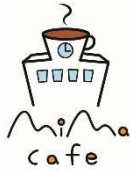


生徒の意欲をさらに高めるための、  
指導方法や環境設定の再構築が必要

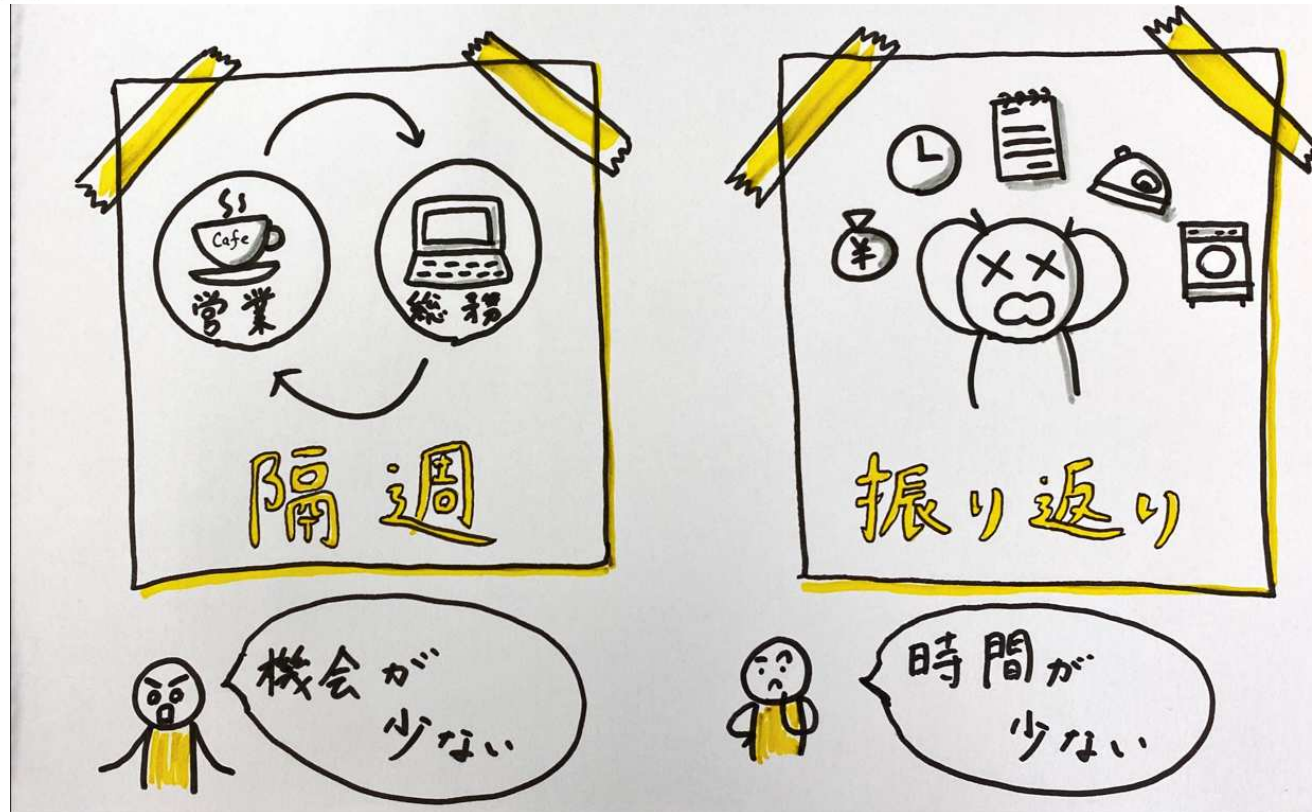
# 意欲の定義



環境の中で適切な行動が安定して出現している状態=意欲

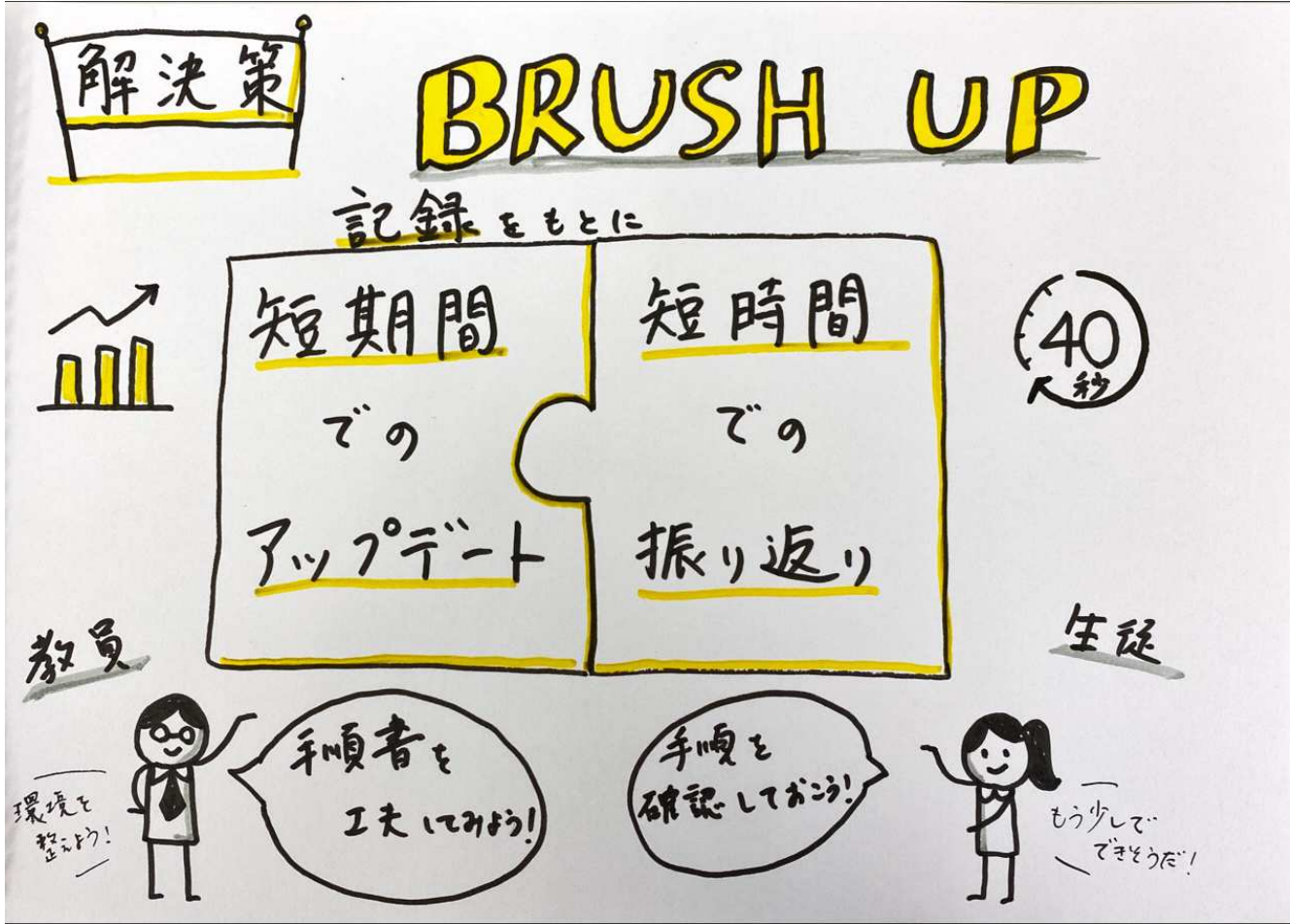


## 作業学習(カフェ)の課題



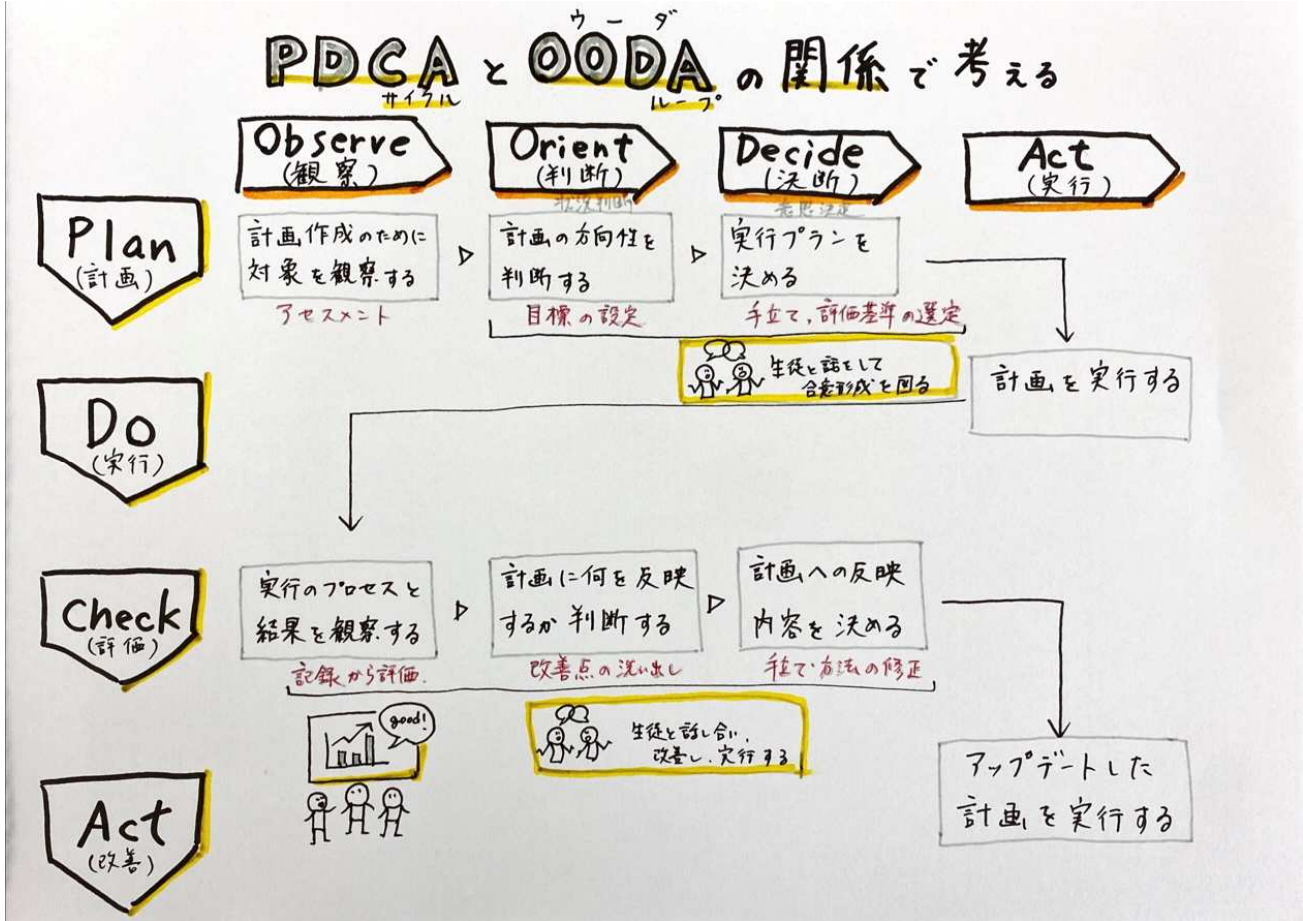
- ① 2班編成で、営業部と総務部が隔週で入れ替わるため継続した指導が難しい。
- ② 営業時間等の関係で、振り返りの時間をとることが難しい。

# アドバイザーからの助言



- ①作業記録を作成し、目標に関する記録を残す。
- ②記録をもとに、生徒とともに振り返る時間の設定。

# 助言を受けての見直し



PDCAサイクルとOODAループの組み合わせで、指導の手続きを見える化し、3分程度の振り返りと隔週で支援のアップデートを実施できるように工夫。

# 生徒の実態 (Aさんの事例)



高2の男子

好物は.

いくら丼

いいところ

計算がとくい



と、真面目

前向き

漢字もとくい

一般就労

をめざしています!



課題

課題を克服  
するため、頑張っ  
ています!!



作業スピード

状況の判断

# 指導の手続き

前期のふりがえり in  **作業C**

**ツール：ふりがえりシート**  
年間で3回実施  
①前期のふり ②前期のふり ③後期のふり



**営業**

カップセット

- 洗いのスピードがはやくなった
- △ セッティングをほやくする

下膳

- お皿をでいかに扱った
- △ 使用のもの使用していないものの区別をほやくする

**総務**

商品開発

- 行を切る作業では、上手に切ることができた
- △ スピードをほやくする

広報

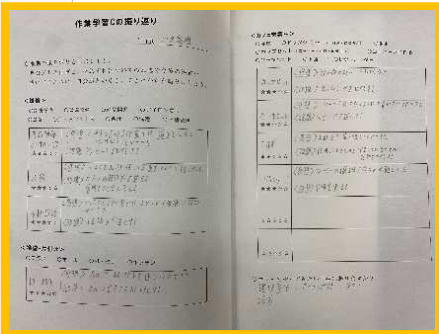
- △ カメラの使い方が難しかった
- △ 質問をたくさん考えること

**NEXT** 後期



I wanna try!






①前期の振り返りから、生徒がやってみたい仕事内容を洗い出し、教員から生徒に後期の目標を提案。



# 指導の手続き

Aさん  アイロンがけ  
してみたい!

今回の事例は、  
総務での  
アイロンがけです。

Good	Bad
手順を覚えると 確実に作業を 進めることができる。	作業に時間が かかることがある。 (自分でも作業 スピードを上げたい と強く思っている)

→ 前向き

カフェシャツ  
目標： 1枚につき、20分以内に仕上げる

②目標について生徒と話し合い、合意形成を図るとともに、具体的な目標を設定。

# 指導の手続き

名 Aさん

担当	目標	評価基準	11/12	12/10	1/28	2/16	/	/	/	/
営業	・レジ担当業務を正確に行うことができる。 (目標として取り上げる業務は以下の①~③)	①「ありがとうございます」といってまがのすしを打たせてもらおう ②各担当者が返事をしてくれる ③まがのすしに伝票を添えてもらう	○	○	○	○	○	○	○	○
	①相手に聞こえる大きさとゆっくり接客用語を発声しながら、レジを打つ。 ②オーダーを伝える時は、各担当に顔と体を向ける。 ③提供する商品を接客担当者に手渡す際には、伝票を確認し、テーブル番号と商品名を確実に伝える。	①どちらかがレジを打つ ②先生から言われた通りに ③どちらかがレジを打つ	○	○	○	◎	○	○	○	○
		①2つとも聞かされた ②そ、ちり伝票が注方が通った ③2つともまがのすし	△	△	△	△	△	△	△	△
総務	・シャツのアイロンがけにおいて、 <del>20分</del> 20分以内で1枚かけることができる。	全7 20分以内にてきた	○	○	○	○	○	○	○	○
		2枚 20分以内にてきた	○	◎	○	○	○	○	○	○
		1枚 20分以内にてきた	△	△	△	△	△	△	△	△

※生徒は黒、教員は赤で記録する

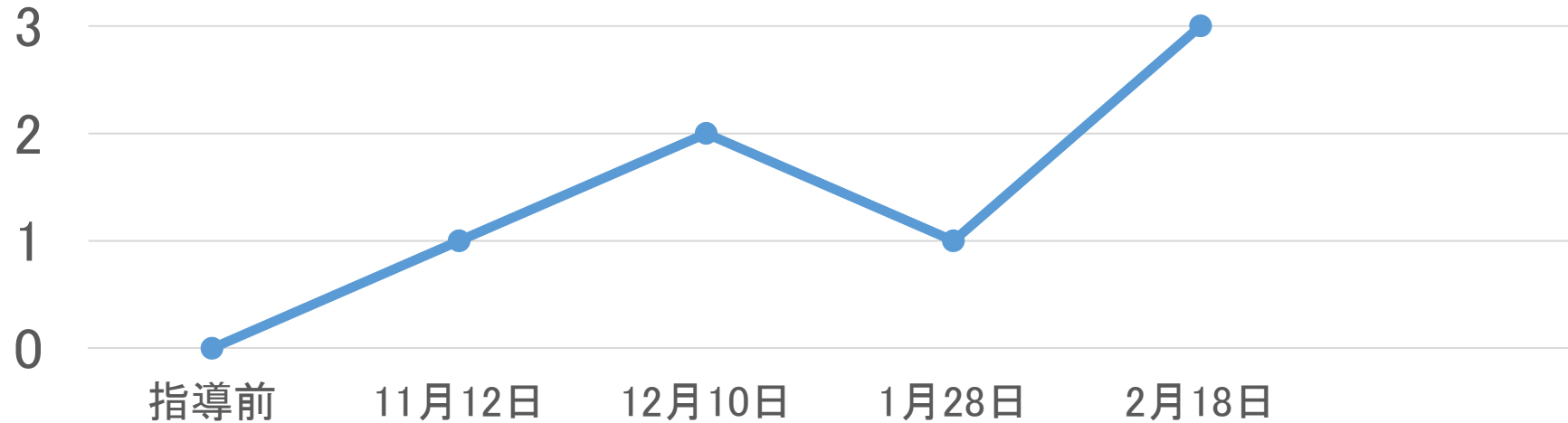
③担当教員と生徒が話し合い、目標の評価基準を決定し、自己評価と他者評価を記録。

④記録をもとに、生徒とともに振り返る時間の設定。

# 記録

カフェシャツ一枚につき、20分以内に仕上げる

(枚数)



◎(3P)	3枚すべてできた
○(2P)	2枚できた
△(1P)	1枚できた
×(0P)	できなかった (指導前: 1枚30分以上)

○生徒と相談し、事前に評価基準を決定。

○作業終了後に生徒自身が記録。

## 取組の成果



生徒

### 【本人談】

やりたいことにチャレンジすることができ、うれしかった。少しずつできるようになり、「やればできる」と自信をつけることができた。先生と話し合いながら進めたので安心だった。

作業記録の評価をもとに、生徒自身が改善案  
(アイロンの位置を変える等)を提案する等、目標を達成するためにどうすればよいのか自ら考えるようになり、これまで以上に主体的に取り組むことができた。

## 取組の成果

短時間ではあるが、記録をもとに振り返ることで、ツールや環境設定等について毎時間改善することができた。少ない指導機会ではあるが、着実に成功へと近づいているのが実感できた。



教員

作業記録の評価をもとに、リアルタイムで生徒のニーズを把握することができ、次の指導機会までに必要な支援を準備することができた。振り返りの大切さを再認識することができた。

# コンサルテーション



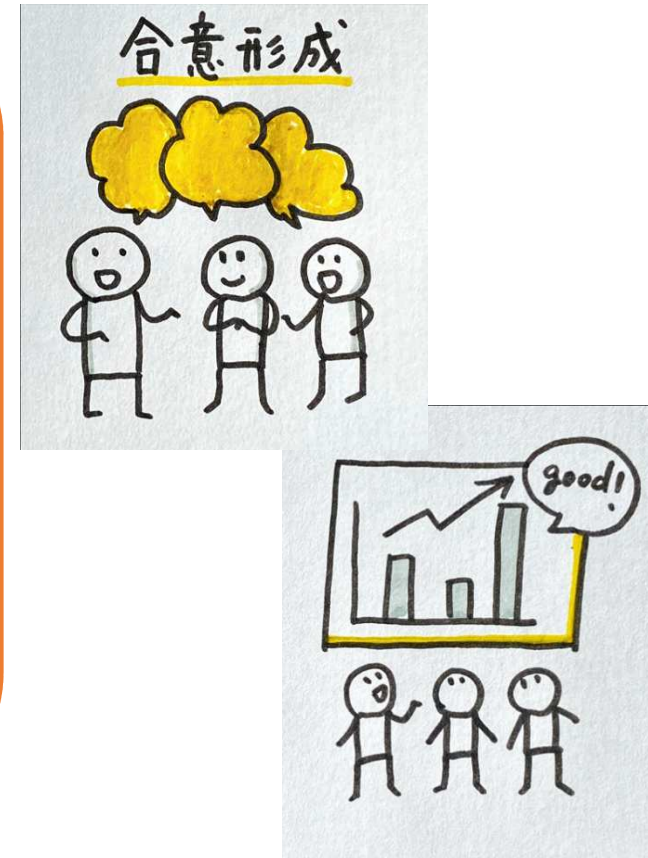
○ 生徒参加型のコンサルテーションを実施。生徒自身が専門家にアドバイスをいただくことで、自分の良さや課題等を認識することができた。

○ 多様多重な評価を受けることで、意欲と有能感を高める(できる・やってみようを引き出す)機会となった。

## 成功のポイント

○ 生徒と教員が合意形成を図りながら目標設定や評価をすることで、互いのやるべきことが明確になる。

○ 指導の手続きを見える化し、3分程度の振り返りを実施、隔週で支援の手立てや方法を改善することができた。



「やってみたい」からスタートし、「できた」を生み出すまでの最短ルートを進むことができる。